

お元気ですか

発行日
令和7年3月16日
発行者：
公立置賜南陽病院
広報委員会



マンモグラフィが新しくなりました！

乳 ^{がん} 癌

名誉院長 原田 正夫



日本の女性で最も多い^{がん}癌は乳癌です。最近増加してきており、年間9万人の日本人女性が新たに乳癌と診断されています。今のところ、一生のうち乳癌になる女性の割合は9人に1人といわれています。乳癌になりやすい年齢を見ると、40歳代～60歳代にピークがあります。乳癌の5～10%といわれる生まれながらに持っている遺伝子変異によって起こる遺伝性乳癌以外は、乳癌の原因は分かりません。しかし、その発生要因として女性ホルモンのエストロゲンが深く関わっており、初経年齢が早い、閉経年齢が遅い、出産歴がない、初産年齢が遅い、授乳歴がない、閉経後の肥満、飲酒習慣、喫煙と受動喫煙などが考えられます。なお、まれに男性乳癌も存在します。

乳癌検診の目的は、癌を早期発見し、適切な治療を行うことで、癌による死亡を減少させることです。そのためには定期的に検診を受けることです。この時、威力を発揮するのがマンモグラフィです。触診ではわからない癌による微細石灰化で判明します。しかし、マンモグラフィではわからない乳癌も数%あります。

そこで、南陽病院ではマンモグラフィと視・触診を併用し癌を見逃さないようにして、一次検診と二次検診（精密検査）を行なっています。必要に応じて超音波検査を施行し、乳癌が疑われるなら病変部に細い針で^{せんしきゅういんさいぼうしん}穿刺吸引細胞診を行い診断します。その結果、年間数人の乳癌患者が発見され、数年に1人程度マンモグラフィでは分からないが触診で判明する乳癌が見つかっています。

自分の命を守るため、定期的に1年に1回は乳癌検診を受けましょう。

～～放射線科より マンモグラフィについて～～

マンモグラフィとは乳房専用のX線撮影のことで、当院では両側の乳房をそれぞれ2方向から撮影しています。乳腺に隠れた病変を見つけやすくするため、乳房をできるだけ薄く伸ばした状態で撮影を行います。痛みを伴う場合がありますが、薄くすることは被ばくを少なくすることにもつながります。

（裏面に続く）



当院では2月に新しいマンモグラフィ装置を導入しました。以前に比べ高性能となり、低被ばくで高精細な画像が得られるようになりました。また、人によって感じ方は異なりますが、乳房を伸ばした際の痛みを軽減する機能も備わりました。さらに、撮影後の画像表示が以前より早くなったため、撮影室内での待ち時間も短くなりました。

当院での乳癌検診は予約不要で、外科の診察日（月・火・木）の午前中に検査可能です。最近検診をしていないので久しぶりに受けてみたい、40歳になったので初めて検診をしてみたいなどありましたら、お気軽にご相談ください。



南陽病院版エンディングノート

こころむす

『心結びノート』が完成しました

エンディングノートと言うと、「終活」=暗い印象と思われがちですが、自分の人生を振り返り、改めて自分を知ること、この先の人生を充実させるための道しるべにもなります。

「心結びノート」には、延命治療のことなど、もしものときに自分が希望する医療についての内容も含まれています。書いておくことで、万が一、家族や大切な人と話す術がなくなったとしても、自分の想

いを伝えることができます。また、家族や大切な人の負担の軽減にもなります。

このように、「自分と家族・大切な人」、「南陽病院と市民」を結び、ひとりひとりの想いがつながっていくようにという思いを込めて作成しました。

自分らしく生きることができるようにも、手にとってみませんか？
ご希望のある方は、当院スタッフにお声がけください。

今をよりよく生きるため、元気なうちに、思い立ったときに、書き綴ってみるのにご活用いただけたらと思います。



病院ギャラリー

（展示期間：R7.3.3～R7.3.31）

片桐 登さんの絵画作品
（一部ご紹介）



「あじさい朝陽を浴びて」

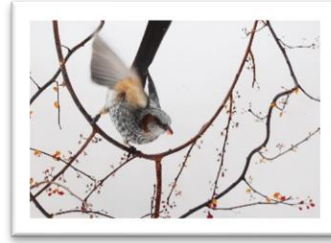


「春を待つ白竜湖」

遠藤 貞夫さんの写真作品
（一部ご紹介）



「はなはだ
花 筏」
（南陽市）



「ヒヨドリ」
（南陽市）

*ギャラリーは、外来受診でお越しの方に限らず、一般の方にもお楽しみいただけます。

≪病院ギャラリー作品予定（4月）≫
富谷信広作品展 佐藤須和写真展